
❖ 講 演 会 ❖

龍谷大学世界仏教文化研究センター学術講演会

媽祖信仰と文化

2017 年 4 月 27 日 (木) 10:45～12:15

龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室



会場の様子
(龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室)

❖ 概 要 ❖

テーマ：「媽祖信仰と文化」

講演者：宋建曉氏（莆田学院副校長）

通 訳：李曼寧（龍谷大学世界仏教文化研究センターリサーチ・アシスタント）



中央：宋建曉氏、向かって右：李曼寧氏

❖ 講演のポイント ❖

中国の福建省莆^ほ田^{でん}市を発祥地とし、中国沿海部をはじめ、東南アジア、日本南部ないし欧米圏まで広がった媽祖信仰について、宋建曉氏がその歴史伝承や慣習などに関する背景や莆田市政府と莆田学院が行っている媽祖文化の継承・振興事業の実態などを紹介した。その上で、この伝統的な信仰と文化が現代社会、特に「一帯一路」経済文化圏の構築における意義を論じた。

❖ 講演の概要 ❖

❖ 背景 ❖

1、媽祖信仰・媽祖文化とは？

媽祖信仰は、中国歴史上の实在人物である林默（「林默娘」とも）という女性の神格化によって生まれた伝統信仰であり、中国大陆の南部沿海・台湾地域をはじめとして、東南アジア、日本南部沿海ないし欧米圏まで広く信仰されていて、観音菩薩化身説または観音弟子説もかなり有力である。

衆生救済を目標とし、医療や慈善事業などに尽力しつづけ、最後に難破船を救助するために命を落とした林默は、民間では、海神として祀られ、公では、宋代から清代にかけて、歴代の皇帝に 36 回冊封され、国家鎮護の神ともされている。

2、莆田市の媽祖文化継承発展事業

「媽祖信俗」（＝媽祖信仰民俗）は、2009 年に世界無形文化遺産に登録され、中国初の信仰民俗系世界遺産となった。莆田市政府が種々の施策を出し、媽祖文化の保護・伝承に力を入れた。また慈善事業や道德教育などの面において、媽祖の「大愛精神」（＝広大無私の愛）が旗印となり、現代社会における模範的役割が果たされた。

3、莆田学院の媽祖文化研究教育事情

莆田学院は百年の歴史を有する総合大学であり、近年、媽祖文化研究院を特設し、媽祖文化研究を盛り上げ、国際的な媽祖文化研究拠点を構えることに尽力している。特に、媽祖文化研究者の育成、媽祖文化研究の学術交流を重視し、国際的学術研究討論会の開催や他の研究機関との共同研究などを積極的に行ったほか、専門的学術誌の編集出版、国・部・省・市レベルの多くの研究プロジェクト補助金の申請・獲得、さらに関連著作・論文を多数あげた。

❖ 本論 ❖

一、「一带一路」経済文化圏構築とは？

「一带一路」とは、中国国家主席習近平が 2013 年に初めて提言をし、2014 年 11 月に北京で開催された第 24 回アジア太平洋経済協力首脳会議（APEC）において正式に提唱した経済圏構想である。特に「平和」「繁栄」「開放」「創新」「文明」をテーマにして、古代中国と他の国・地域との経済文化交流の歴史を踏まえ、「シルクロード経済ベルト」（一帯）と「21 世紀海上シルクロード」（一路）との二つの地域連携が提案された。これは、世界の多極化、経済グローバル化、文化の多様化、社会の情報化が進んでいる中、中国経済の発展と世界的な経済回復を目標とする経済文化圏構想である。

二、「和諧共榮」を目標とする媽祖文化

媽祖の「大愛精神」にちなんで、現代社会における媽祖文化には、「和諧共榮」という目標が与えられている。このような媽祖文化は、多くの国家・地域に信仰された地域的広範性、儒仏道の思想を融合した宗教的汎用性、海に深くかかわった海洋性、複数の職能を有する神としての機能性などの特性を持っている。

三、媽祖文化が「一帯一路」構築における意義—全球治理（Global Governance）の視角から—

（一）媽祖文化のリーダーシップの発揮

現代社会における媽祖文化の「和諧共榮」の精神は、「一帯一路」経済文化圏構想の方針と一致し、リーダーシップの質を有していると考えられる。

（二）媽祖文化の文化媒介機能の発揮

地域的広範性、宗教的汎用性、海洋性と機能性を持っている媽祖文化は、歴史文化の交流を基にする「一帯一路」経済文化圏の構築においては、特に文化交流の媒介としての力を持っている。

（三）媽祖文化の連携機能の発揮

「世界媽祖文化フォーラム」「国際媽祖文化学術研究討論会」「媽祖文化祭り」のような文化交流事業の開催を通じて、「一帯一路」沿線の諸国家・地域との民間交流の強化や海外華人と中国の絆の深化などが可能となり、中国、特に福建省と他の「一帯一路」沿線国家・地域の文化・経済協力を推進することができる。

❖ ま と め ❖

媽祖信仰は、実在人物の事績に基づいて生れ、千年以上に渡って世界的規模にまで広がった生命力の強い伝統信仰である。媽祖文化の旗印となる広大無私の「大愛精神」は現代社会においても重要であり、道德教育や慈善活動などの指導的立場にたつものである。さらに、その地理的広範性、宗教的汎用性、開放的な海洋性、包容性などの特性を包括していることから、中国が提唱した「一帯一路」経済文化圏の構築には、今後ますますリーダーシップを発揮し、推進していく力を有すると考えられる。

【文責】 龍谷大学世界仏教文化研究センターリサーチ・アシスタント 李曼寧